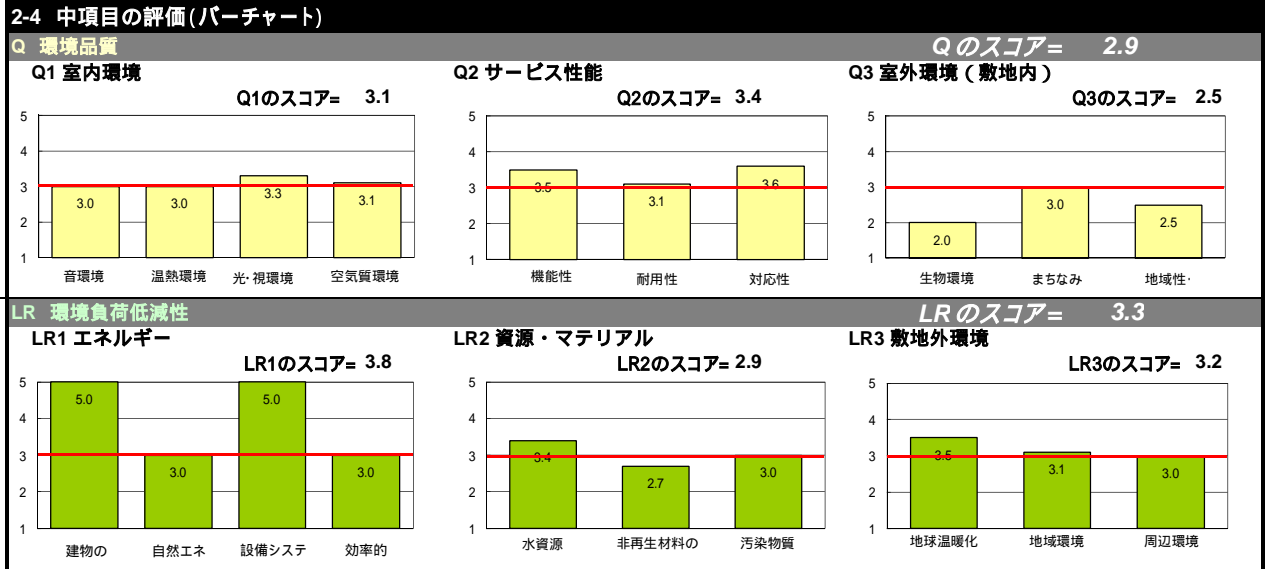
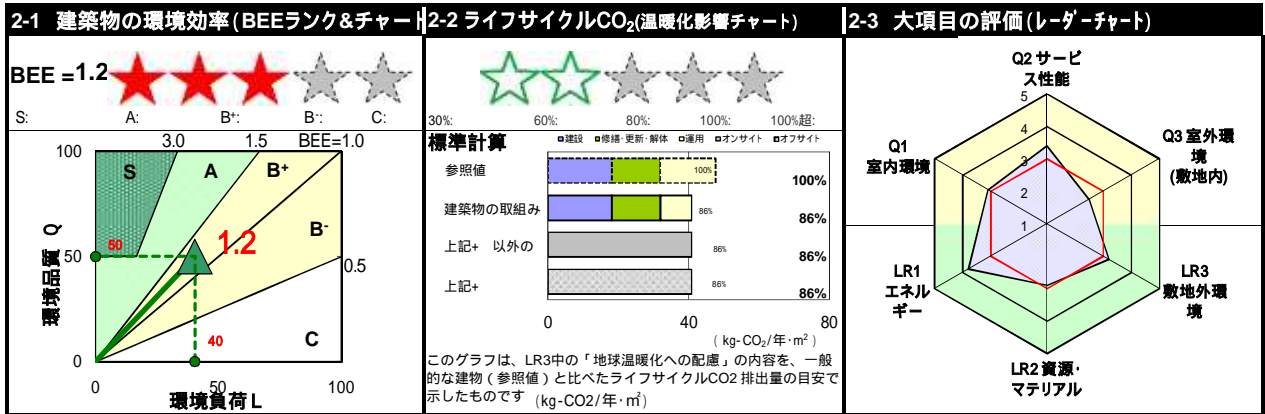


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	小田原ロジスティクスセンター( 期工事)	階数	地上5F
建設地	小田原市扇町4丁目18番2	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	1,100 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所, 工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年6月 0.0	評価の実施日	2012年6月12日
敷地面積	34,278 m <sup>2</sup>	作成者	(株)ワダ・アンド・パートナーズ
建築面積	14,726 m <sup>2</sup>	確認日	2012年6月12日
延床面積	67,704 m <sup>2</sup>	確認者	(株)ワダ・アンド・パートナーズ

外観/バース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
都市共生型の大型施設としてふさわしい配棟計画と建築計画を目指しています。施設内で業務に従事する勤務者の職場環境について、一般的な倉庫以上の性能となる様、計画しています。	0	
<b>Q1 室内環境</b> 外壁材料に断熱性能に優れた金属製サンドイッチパネル(ロックウール(50kg/m3)を50mm)を採用。屋根材に断熱材(グラスウール(10kg/m3)を100mm)充填した二重折板を採用しています。	<b>Q2 サービス性能</b> 事務所Aの天井高を高く設け(CH=2700~3000)、快適性を追求しています。また事務室にカフェールを採用し、開放感を演出。事務所階には喫煙室を設け、最寄りに自動販売機を併設し、リフレッシュスペースとしての機能を設けています。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内の緑地エリアにGHP用LGPガスバルクタンクを設けており、分岐コックを数カ所設置しています。被災時及び緊急時に近隣住民の方の炊き出し場所として提供するスペースとしています。
<b>LR1 エネルギー</b> 居室換気部分は、全熱交換器を主に採用し省エネ対応を行っています。また厚生エリア空調方式として、GHP(ガスヒートポンプエアコン)を採用し省エネ効果を図っています。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 便所エリアの小便器は節水型器具(洗浄1~2L)を採用。小便器・洗面器の洗浄部分には水力発電機を内蔵した外部電源不要のアクエナジーを採用し、節水効果・ランニングコスト削減に努めています。	<b>LR3 敷地外環境</b> LR2でも記述しました小便器・洗面器の洗浄部分に水力発電機を内蔵した器具を採用する事により、電気使用料を抑え、結果としてCO <sub>2</sub> 削減効果・地球温暖化防止効果に努めています。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
**Q: Quality** (建築物の環境品質), **L: Load** (建築物の環境負荷), **LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性), **BEE Building Environmental Efficiency** (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される